

Community Medicine
— 地域医療の架け橋 —

2023年春号

第 75 号



地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構
神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町2丁目1-1
TEL 078-594-2211
FAX 078-594-2244
<http://kobe.jcho.go.jp/>

新年度のご挨拶

院長 松本 圭吾



令和5年度を迎えるにあたりご挨拶申し上げます。

3年前に新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起こり、何回かの波が襲来し、社会としてもこのウイルス感染に関する経験値も積み、ワクチンの普及も相まって新型コロナウイルス感染については漸く出口らしきものが見えてきてかと思われます。今回のパンデミックでは病院として苦難だけではなく得られたものも少なからずあります。1つはIT化です。会議、講演会などでは、オンラインによるリモートやハイブリッドでの開催が常態化し、移動・集合にかかる時間・エネルギーが節約できるようになったこと。2つ目はチーム医療の強化があります。パンデミックという共通の難敵に多職種で職員がチームで闘ったということ。これは大きな宝となったと思います。

一方で、パンデミックのなか、昨年2月にロシアによるウクライナへの侵攻が始まり、全世界のエネルギー、食糧に大きな影響が及んでおり、地球規模での混迷の時代に入った感があります。この混迷の時代を生き抜くための幾つかのキーワードに「ネットワーク」「イノベーション」があります。重要なのは個人の様々な知恵やアイデアがネットワークにより積み重なることであり、これにより集合知が高まることでイノベーションを生み、自然淘汰のプロセスが進むとされています。

当院は本年7月で生田区（現 中央区）中山手に開設され75年、北区に移転して37年を迎えます。当院は、一貫して地域医療を支えることを使命として病院運営をしてまいりましたが、医療情勢・医療資源の変動もあり、当院のおかれている環境は移転当初とは変化してきております。

今後は、「ネットワーク」「イノベーション」に留意しつつ、従来にも増して、地域の皆様、医療・介護施設の方々、救急・行政の方々とコミュニケーションを図りながら地域医療の充実に資したいと考えております。

新年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

第18回市民医療セミナー

入場無料・申込み不要

テーマ 「脳卒中にならないために、なってしまったら」

日時 令和5年6月17日（土） 13時から

場所

神戸中央病院 1階玄関ホール

詳細は近日中にパンフレットを配布いたします。

近隣医療機関のご紹介

こづち眼科

〒651-1111 神戸市北区鈴蘭台北町1-9-1 ベルスト鈴蘭台2F

TEL : 078-591-8500 FAX : 078-591-8505

診療科目: 眼科

診療時間:

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:30~12:00	●	●	●	×	●	●	×
15:30~18:30	●	●	●	×	●	×	×

※休診日: 木曜、土曜午後、日曜、祝日



小槌 育美 院長

兵庫医科大学眼科学教室へ入局後、2018年9月にベルスト鈴蘭台開業に合わせてクリニックを開院いたしました。当院では白内障手術など大きな手術は行いません。手術はJCHO中央病院や他の施設へご紹介しています。JCHO中央病院の皆様には大変お世話になっており、この場をお借りして御礼申し上げます。私は以前までは兵庫医科大学関連病院にて様々な疾患に携わることができました。その経験を踏まえて私の目指すもので、地域の方の眼の健康を守る役目を担いたいと思っております。特に子供の近視は増えてきており、治すことができませんが進行を遅らせる方法をご提供することができます。その他の疾患でも見え方の質（Quality of Vision）を守るためのお助けができればという思いで日々診察をしています。病気の進行を遅らせ生涯にわたり日常生活に困らないようお助けできれば更にうれしいです。眼や見え方について不安なことなど何なりとご相談いただければ幸いです。



今後ともよろしくお願い致します。

研修医 (任期付)



マツヤマ マサヒロ
松山 将成

この度初期研修医として神戸中央病院でお世話になる松山将成です。地元である神戸で精一杯頑張りますので皆様どうぞよろしくお願い致します。



ウエダ テツマ
植田 鉄馬

今年から初期研修医としてお世話になります。生まれ育った地である神戸で、医師としての生活を始められることを嬉しく思っています。精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。



オオヤマ ヒロユキ
大山 裕之

2年間初期研修医としてお世話になります。運動はラグビーと柔道をしてきました。至らない点が多々あるかと思いますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。



ヨネナガ ユタカ
米永 豊

4月から2年間研修医としてお世話になります。医師として成長できるよう精一杯頑張りますので、ご指導よろしくお願い致します。



シメ モエ
志馬 萌

京都府立医科大学のたすきがけで参りました。生まれも育ちも京都ですが、神戸の街が大好きです。未熟者ではございますが1年間頑張りますのでたくさんご指導いただけますと幸いです。よろしくお願い致します。



タカギ リュウヘイ
高木 隆平

兵庫医科大学出身の高木と申します。将来の専攻は未定ですが、どの道に進んでも必要となる医師としての基本をこの病院で学びたいと思います。

新任医師紹介



ホリノウチ ユタカ
堀之内 豊：整形外科

4月より整形外科で勤務させていただきます。骨折や変性疾患、運動器疾患など地域の皆様のお役に立てるよう努めていきます。



タナカ サチエ
田中 幸恵：外科

4月よりお世話になります。皆様に寄り添った丁寧な診療を心掛けていきたいと思っております。宜しくお願い致します。



トミタ アサミ
富田 麻美：麻酔科

麻酔科で勤務させていただきます。長らく大阪で働いており、初めての神戸で不慣れな点も多いと思いますが、頑張りますので宜しくお願い致します。



ヤスモト カズマサ
安本 和正：麻酔科

4月より麻酔科で勤務させていただきます。長年京都の北部医療に携わってきました。これからは神戸市北区の医療に貢献できるように頑張ります。



ニシハラケイイチロウ
西原圭一郎：消化器内科

医師11年目の西原と申します。これまでは神戸市内の中核病院やがんの専門病院で内視鏡治療を中心に研鑽を積んで参りました。北区の医療貢献のため努めていきますのでよろしくお願い申し上げます。



アカザワ ミホ
赤澤 美保：婦人科

4月より婦人科で勤務させていただきます。1歳の双子を育てながら、地域の皆様のお役に少しでも立てよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



カンダ ユウスケ
寛田 佑介：整形外科

4月より整形外科として勤務させていただきます。地域の皆様に貢献できるよう、日々精進致しますので、宜しくお願い致します。



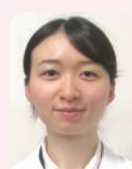
ウmeta タカヨ
浦田 貴代：小児科

4月より赴任いたしました。患者様、ご家族の皆様に寄り添った医療を心がけ、お役に立てよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



クノ アリサ
久野ありさ：内科・糖尿病内科

4月より糖尿病内科で勤務させていただきます。地域の皆様のお役に立てよう精進して参ります。よろしくお願いいたします。



ハトウ サエ
羽藤 沙恵：呼吸器内科

4月より赴任いたしました。地域の皆様に貢献できるよう精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



ドンカイ トモキ
呑海 知輝：消化器内科

4月より消化器内科専攻医として勤務させていただきます。地域に根ざした医療を提供できるよう、また、自身の研鑽を積めるよう努力して参りますのでどうぞよろしくお願い致します。



ナカムラ マサシ
中村 優志：整形外科

4月より整形外科で勤務させていただきます。地域医療に貢献できるように精進致します。どうぞよろしくお願い致します。

退任医師のお知らせ

内 科：栗原 美樹
呼吸器内科：井ノ口乃英瑠
循環器内科：安田 貴裕
循環器内科：大岡 順一

消化器内科：西川 恵璃
消化器内科：米田 秀揮
外 科：渡邊 信之
外 科：福永 武史

整 形 外 科：神原俊一郎
整 形 外 科：福崎 隼
整 形 外 科：大石 隼人

小 児 科：都間 佑介
放 射 線 科：中山 雅夫

研 修 医：武本 奈緒子

石津 雄亮 松吉 恭平

武田 隆希 中西 仁奈



メディカル ライン

《医療機関向け》

整形外科 部長 岡山 明洙



変形性膝関節症について

今回は変形性膝関節症についてお話します。

疫学と症状

性別では1：4で女性に多くみられ、年齢を重ねるほど罹患率は高くなります。

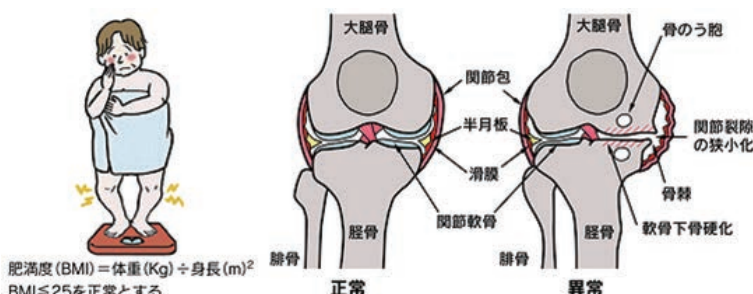
主な症状は膝の痛みと水がたまることです。

初期の症状は立ち上がる際、歩きはじめなどの動作の開始時のみに痛み、休めば痛みがましになりますが、中期では正座や階段の昇降が困難となり、末期になると、安静時に（じっとしていても）痛みがとれず、下肢の変形が目立ち、膝がまっすぐ伸びず歩行が困難になります。

原因と病態

原因は関節軟骨の老化によることが多く、肥満や素因（遺伝子）も関与しています。また骨折、靱帯損傷や半月板損傷などの外傷、化膿性関節炎などの感染の後遺症として二次的に発症することもあります。

加齢性のもものでは、関節軟骨が年齢とともに弾力性を失い、すり減り、その結果関節が変形します。



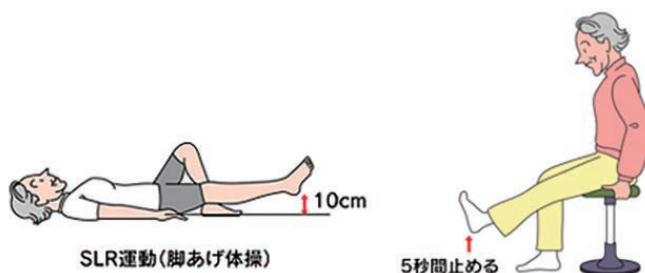
診断

問診や診察、触診で膝の内側の圧痛の有無、関節の動きの範囲、腫れやO脚変形などの有無を調べ、X線（レントゲン）検査で診断します。必要によりMRI検査などをします。

予防と治療

予防（日常生活での注意点）

- 大腿の前の筋肉（大腿四頭筋）を鍛える。
- 膝の深屈曲（正座）をさける。洋式トイレを使用する
- 肥満があれば、栄養指導、減量指導する。
- 膝周囲を冷やさず、温めて血行を良くする。



治療

症状が軽い場合は痛み止めの内服薬や外用薬を処方し、膝関節内にヒアルロン酸の注射などをします。また大腿四頭筋強化訓練、関節可動域改善訓練などの運動器リハビリテーションを行ったり、膝を温めたりする物理療法を行います。下肢の変形に対し足底板や膝装具を作成することもあります。

上記のような保存的治療でも痛みが改善せず日常生活動作に支障がある場合は手術治療を検討します。これには関節鏡（内視鏡）手術、膝周囲骨切り術（骨を切って変形を矯正する）、人工膝関節置換術などがあります。

当院では人工膝関節置換術を積極的に行い2022年度では約70症例施行しています。術翌日からリハビリテーション介入を開始し、日常生活に復帰できることを退院時期に設定しています。

当院では膝関節治療だけでなく、股関節疾患、脊椎疾患についての治療についても各専門医が診療に携わっております。近隣の先生方におきましてはお気軽にお問い合わせください。

今後ともよろしくお願いいたします。